

自己免疫介在性脳炎・脳症： 疫学・臨床・治療の update 2026



座 長

松尾 秀徳 先生

国立病院機構 長崎病院 脳神経内科

演 者

河内 泉 先生

新潟大学医歯学系医学系列・医歯学総合病院脳神経内科

開催日

2026年11月21日(土) 12:10～13:00

会 場

第2会場 京王プラザホテル札幌 B1 プラザホール
〒060-0005 札幌市中央区北5条西7丁目2-1

参加方法につきましては学術大会ホームページをご確認ください

<https://www.kikou-conf.com/jsfa47/>

共催：第47回日本アフェリシス学会学術大会
旭化成メディカル株式会社

自己免疫介在性脳炎・脳症： 疫学・臨床・治療のupdate 2026

Autoimmune Encephalitis: A 2026 Update on Epidemiology, Clinical Features, and Treatments

河内 泉 先生 Izumi Kawachi

新潟大学医歯学系医学系列・医歯学総合病院脳神経内科

Academic Assembly Institute of Medicine and Dentistry, Niigata University

Department of Neurology, Brain Research Institute, Niigata University

自己免疫介在性脳炎・脳症（autoimmune encephalitis; AE）は、神経細胞・グリア細胞に発現する分子を標的とした自己免疫機序を背景に、意識障害、精神症状、けいれん、記憶障害、不随意運動など多彩な神経症候を呈する疾患群である。近年、N-methyl-D-aspartate receptor (NMDAR) 抗体、leucine-rich glioma-inactivated 1 (LGI1) 抗体をはじめとする神経抗体の同定が進み、疾患概念、診断体系、病態理解は大きく変化した。本邦の全国疫学調査(2016年調査)から、AE患者数は3年間で約2,700人と推計されている。さらに、本邦の全国疫学調査(2022年調査)から、二大AEであるNMDAR抗体脳炎およびLGI1抗体脳炎の最新の疾患実態の把握が進められている。

AEの診療では、感染性脳炎や腫瘍性疾患などを慎重に除外しながら、臨床像に応じた神経抗体検査を進め、抗体結果を待たずに、早期の免疫療法を検討することが重要である。2026年、本邦のAE診療は保険診療上の大きな転換点を迎えた。AEに対する静注用人免疫グロブリン (IVIG) の適応追加に加え、血漿交換療法も診療報酬上の対象となり、従来、保険外であった主要な第一選択免疫療法を保険診療として実施できる環境が整備された。これにより、高用量グルココルチコイド、IVIG、血漿交換療法を適切に組み合わせた急性期治療の標準化と、より早期かつ積極的な治療介入が期待される。さらに、現在、本邦を含む世界で、新たな疾患修飾薬の開発が進められており、治療法の開発が飛躍的に進行している。

本講演では、全国疫学調査を含む本邦の最新疫学、神経抗体に基づく臨床像と診断のpitfall、急性期治療から長期予後までを概説し、「診断できる疾患」から「標準的に治療できる疾患」へと進みつつある2026年のAE診療の現在地と今後の課題を考察する。